

## 第 66 回医療薬学会公開シンポジウム開催報告書

第 66 回医療薬学会公開シンポジウム  
実行委員長 島田美樹  
(鳥取大学医学部附属病院 薬剤部)

平成 29 年 9 月 9 日 (土) に米子市コンベンションセンターにおいて、第 66 回医療薬学会公開シンポジウム (主催: 一般社団法人 日本医療薬学会、共催: 鳥取県病院薬剤師会) を開催しました。当日は、気温も 30°C 近くに達し、夏空が戻った行楽日和の晴天となりましたが、県外からの参加者 35 名を含む 94 名の方々にご参加いただきました。職種別では、病院薬剤師が 85 名、薬局薬剤師が 9 名という内訳でした。

今回、公開シンポジウム全体のテーマは、「再考～医療安全と薬剤師の役割～」といたしました。2014 年、東京女子医科大学にて小児に禁忌であるプロポフォールが 2 歳男児に投与され死に至った事件、また、群馬大学医学部附属病院での肝臓の腹腔鏡手術患者の死亡事件、いずれも患者や家族に対する治療のリスクの説明がされていない点、チームとして事故を阻止する力不足や事故の報告体制の不備が浮き彫りになりました。これに対して、厚生省から特定機能病院の医療安全管理体制の見直しに関する医療法の省令が発出され、各施設は、現在も引き続き医療安全管理体制を見直しているところであり、今後、一般病院への拡大、さらに地域での医療安全管理体制についても再考していくべきであり、殊に医薬品安全管理は、薬剤師が中心となって進めていく領域であります。

そこで、シンポジウムのタイトルを「Patient Safety - 薬剤師に求められる視点」といたしました。第 1 演者の山口大学医学部附属病院准教授の幸田恭治先生には、病院薬剤師が病棟で患者安全を確保する目的で行っている医薬品安全管理計画を用いた薬学的管理の取り組みを、第 2 演者の鳥取赤十字病院の國森公明先生には、チーム医療における薬剤師の視点を、第 3 演者の鳥取大学医学部附属病院の椎木芳和先生には、施設全体での医薬品安全管理に関する取り組みを、第 4 演者のケイ・アイ堂薬局の氏原浩善先生には、薬局薬剤師として医療安全とどのように関わっているのかについて、ご講演いただきました。これらのご講演から、改めて薬剤師の視点を見つめ直すとともに、各施設の取り組みは、直ぐに自施設であるいは、薬剤師個人として実施可能なものも多く、大変参考になりました。

次いで、特別講演には、上尾中央総合病院の渡邊幸子先生を迎え、「医薬品安全管理は第 2 ステップへ～今後求められる新たな視点～」というタイトルでご講演いただきました。渡邊先生は、薬剤師の医療安全管理責任者として草分け的な存在であります。医療安全の取り組みの歴史、医薬品事故に対して持つべき視点、重点指向で取り組む医薬品安全管理、ハイリスク薬使用に関するガバナンス、薬剤師に求められるレジリエンス、医療者への継続的教育について明快かつテンポのよいご講演で大変、興味深く拝聴しました。医薬品安全管理は第 2 ステップへというタイトル通り、新たな視点で医薬品安全管理体制を構築していく時期に薬剤師は、何をすべきなのかを非常に判り易くお話いただきました。引き続き、シンポジウム演者と特別講演演者の渡邊先生を交えた総合討論では、薬剤師としての視点を再認識し、新たな段階にある医薬品安全管理について理解を深めた次第であります。シンポジウム全体を通じて、最後まで熱心に聴講いただきました参加者の皆様のお蔭を持ちまして盛会裡に終了しました。

最後になりましたが、遠路お越しいただき素晴らしいご講演を賜りました講師の先生方を始め、参加いただきました参加者の皆様、そして会場準備や企画・運営にご支援・ご尽力いただきました鳥取県病院薬剤師会・鳥取県薬剤師会・鳥取大学医学部附属病院薬剤部の関係各位、さらには準備から種々ご対応いただきました日本医療薬学会事務局の皆様から御礼申し上げます。